

濃煙熱気実火災体験型訓練(ホットトレーニング)施設について

《 導入経緯 》

消防職員の世代交代に伴い、火災性状を知らない若年層の増加や、フラッシュオーバーによる受傷事故・殉職事故の防止、耐火建物と同様の高気密・高断熱木造住宅の増加に対応するため導入

《 実火災体験型訓練とは 》

木製パレットを燃焼させて高温にしたコンテナに消防隊員を進入させ、火災の性状変化、火災現場と同様の熱・煙、注水による熱気環境の変化を体験するもの

《 実火災体験型 》



閉鎖型訓練

木材の燃焼経過に始まり、中性帯の形成経過、閉鎖空間における注水による火災性状の変化を確認します。

また、フラッシュオーバーの前兆現象といわれるロールオーバーの確認を行います。



開放型訓練

扉の開放により高温となったコンテナ内に進入し、放射熱の体験、スポット注水による温度変化を体験します。

以上の2つの訓練をとおして防火衣等の個人装備の性能を確認します。



実火災体験型 訓練記録表									
年	月	日	火災規模	時	火場	コンテナ	温度	圧力	備考
平成 23 年	03 月	01 日	火災規模	時	火場	コンテナ	温度	圧力	備考
訓練時間	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00	00:00
閉鎖型	01	02	03	04	05	06	07	08	09
開放型	10	11	12	13	14	15	16	17	18
温度	19	20	21	22	23	24	25	26	27
圧力	28	29	30	31	32	33	34	35	36
注水量	37	38	39	40	41	42	43	44	45
その他	46	47	48	49	50	51	52	53	54
合計	55	56	57	58	59	60	61	62	63
平均	64	65	66	67	68	69	70	71	72
標準偏差	73	74	75	76	77	78	79	80	81
最大値	82	83	84	85	86	87	88	89	90
最小値	91	92	93	94	95	96	97	98	99
備考	100	101	102	103	104	105	106	107	108

※ 訓練指導者の養成等条件が整い次第、短期入校等により教育訓練に活用していきます。